

## ○ 初山別中学校生徒が修学旅行先でふるさとをPR

初山別村立初山別中学校では、生徒がふるさとをより深く知り、将来の初山別村の振興策を考えるとともに、生徒自身のコミュニケーション能力を高めることを目的として、修学旅行でふるさとをPRする活動を行っています。当日に向けて、生徒たちは初山別村の振興策のヒントとなる情報を集められるよう、外国人旅行者に観光について英語でインタビューする練習を繰り返しました。



新千歳空港でふるさとをPRする生徒の様子

本年度は、第3学年の生徒14名が新千歳空港で初山別村の特産品である「甘えびの丸干し」の食品サンプルや初山別村を紹介するパンフレットなどを配布しました。当日、生徒たちは外国人旅行者に対して積極的に話しかけ、英語でふるさとをPRするとともに、インタビューを行いました。活動後、生徒からは「ふるさとのPRをとおして、初山別村のよさを見つめ直すことができた。」「インタビューをとおして、初山別村を活性化させるための新しいアイデアを考えることができた。」「英語でコミュニケーションをとることは難しかったけれど、相手に伝わったときはとてもうれしかった。」などの感想が多く聞かれるなど、体験活動をとおしてふるさとのよさを学ぶとともに、コミュニケーションの楽しさを実感する姿が見られました。

第3学年の生徒たちは、今回のアンケートやインタビューの結果をまとめ、学校祭の「総合的な学習の時間の学年発表」でふるさと初山別村の振興策を地域の方に提案しました。今後は、その振興策を初山別村の経済課に提出することとしています。

## ○ 北海道天売高等学校による「天売太鼓」の演舞をとおした新たな文化の創出



「天売太鼓」の演舞をする天売高校の生徒

北海道天売高等学校では、天売島の歴史・観光・文化・産業および自然について学ぶことにより、自分たちが生まれ育った郷土を知り、郷土を愛する心を育むとともに地域の発展と存続に貢献する人材の育成を目指し、土曜授業「天売学」を実施しています。

同校ではその取組の1つとして、生徒たちの「伝統をつくりたい」という声を受け、新たな伝統文化の創出と次代への継承を図ることを目的に、平成23年度から「天売太鼓」の学習を実施しています。

生徒たちは8月中旬の「天売学」の授業で、羽幌オロロン太鼓の会の方々から、太鼓をたたくばちを使ったストレッチや腕の振りなど、太鼓をたたく上で必要な基本動作について教えていただきました。生徒の半数は太鼓をたたいた経験がなく、初めて取り組む太鼓の演舞に当初は悪戦苦闘していましたが、「天売太鼓」の授業後も始業前の時間などを使って教員とともに繰り返し練習に励み、9月17日に開かれた学校祭の中で、全校生徒5名が一体となった演舞を地域住民や保護者らに披露しました。

生徒からは、「学校祭本番は、ミスもあったけど練習の成果を十分発揮できました。来年も今年以上に素晴らしいものになるよう努力し、後輩たちにしっかり伝統を伝えていきたいです。」などの感想がありました。

○ 地域の青年たちが「とままえ GENKid's」で子どもたちに体験活動を提供

「とままえ GENKid's」実行委員会が8月9日（水）～11日（金）の3日間の日程で本事業を実施しました。苫前町と初山別村の青年団体が連携して実行委員会を組織し、両町村の小学生を対象に、基幹産業である農漁業などの体験活動を提供し、ふるさとの魅力の再認識と郷土への愛着や誇りをもってもらうことを目的に実施しているものです。

初日は、初山別村を拠点に、旧豊岬小学校でバーベキューやしよさんべつ天文台で星空観察を行いました。2日目は、午前中に村内の畑で野菜の収穫体験をし、午後からは苫前町へ移動して砂浜での地引き網体験を行った後、同町の公民館で、収穫した野菜を用いたパエリアづくりに挑戦しました。3日目には、町内の「水辺の<sup>がっこう</sup>楽校」でトラクターの試乗や釣り体験を行いました。また、初山別村から苫前町への移動に路線バスを活用することで、生活に必要な公共交通機関の利用方法について学習しました。事前に路線バスの使い方やマナーについて学んだ参加者は、日頃自家用車での送迎に慣れているため、実際に乗車するときには、不安な面持ちで乗車する姿が見られました。

運営する青年たちは、参加者に様々な体験を提供するため、何度も事前協議を重ね、安全管理を意識しながら、地元の魅力を伝えていました。中学生も、ボランティアとして事業に参加し、地域の担い手としての自覚をもち、小学生の活動をサポートしていました。

参加者は、3日間様々な体験や地元青年たちとの交流をとおり、ふるさとのよさに触れるとともに、地域の人とのつながりを築きながら楽しい時間を過ごすことができました。



野菜の収穫体験の様子